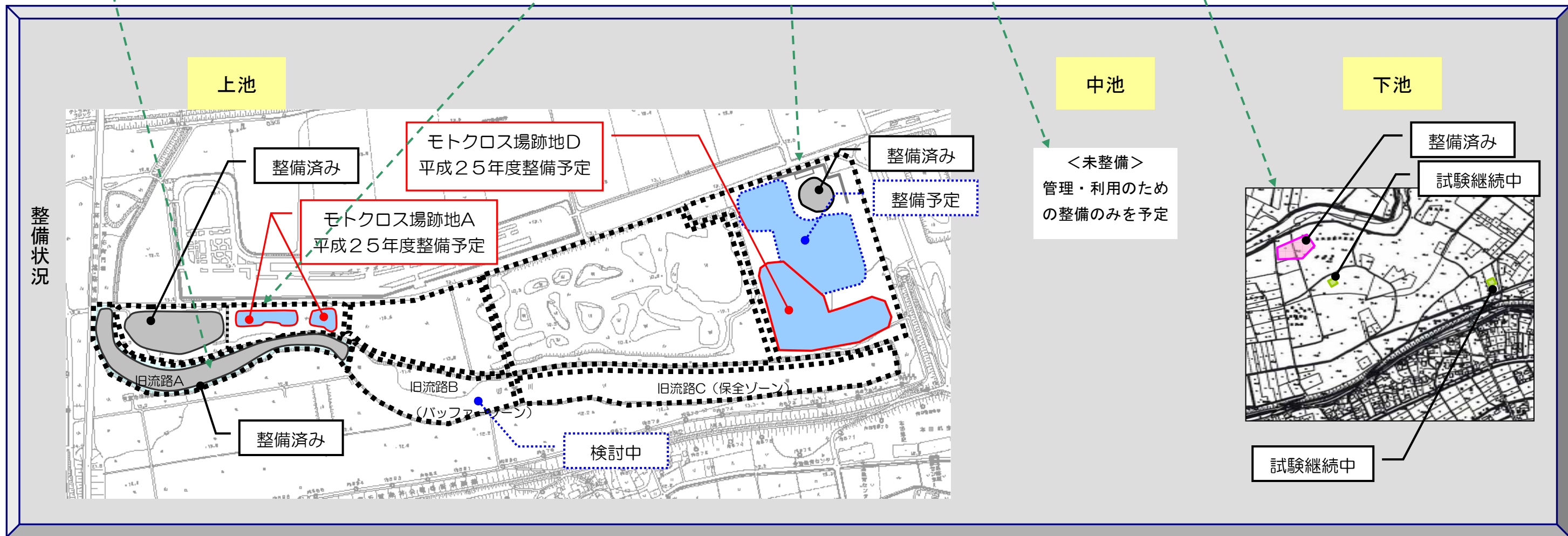
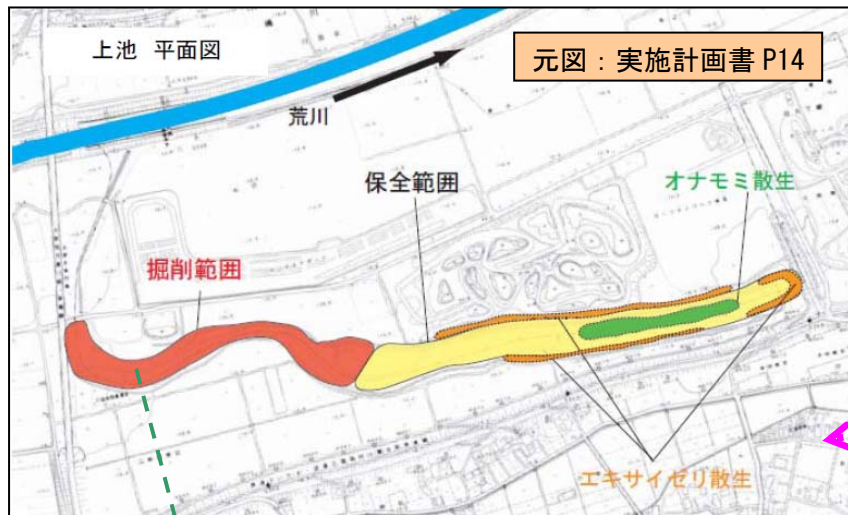
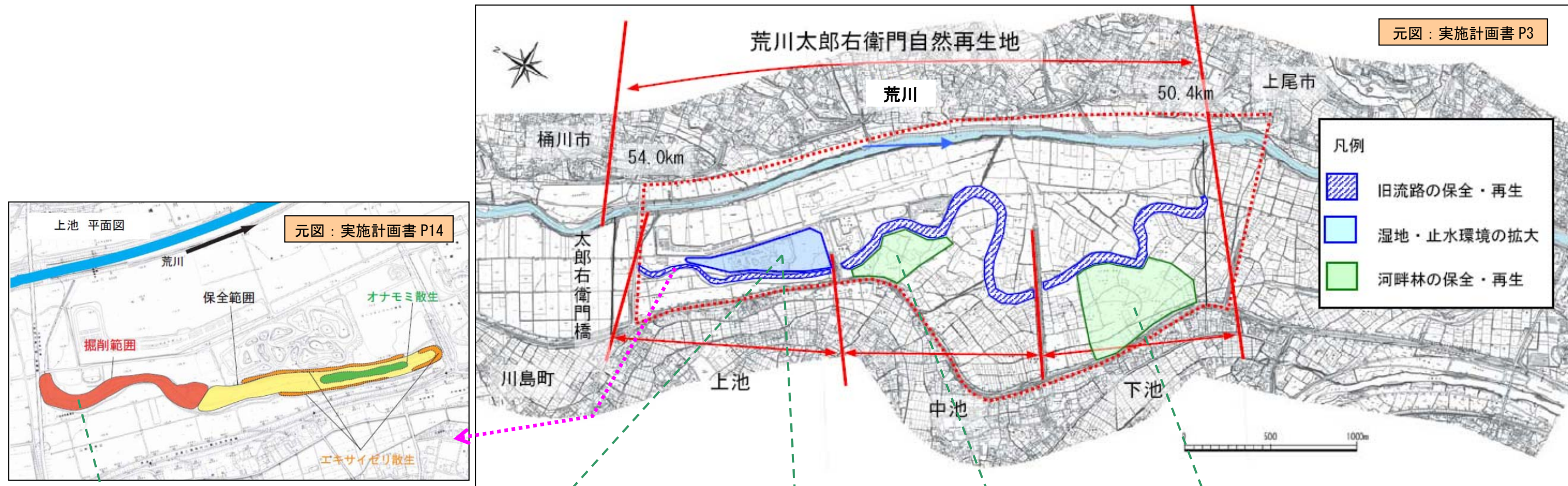


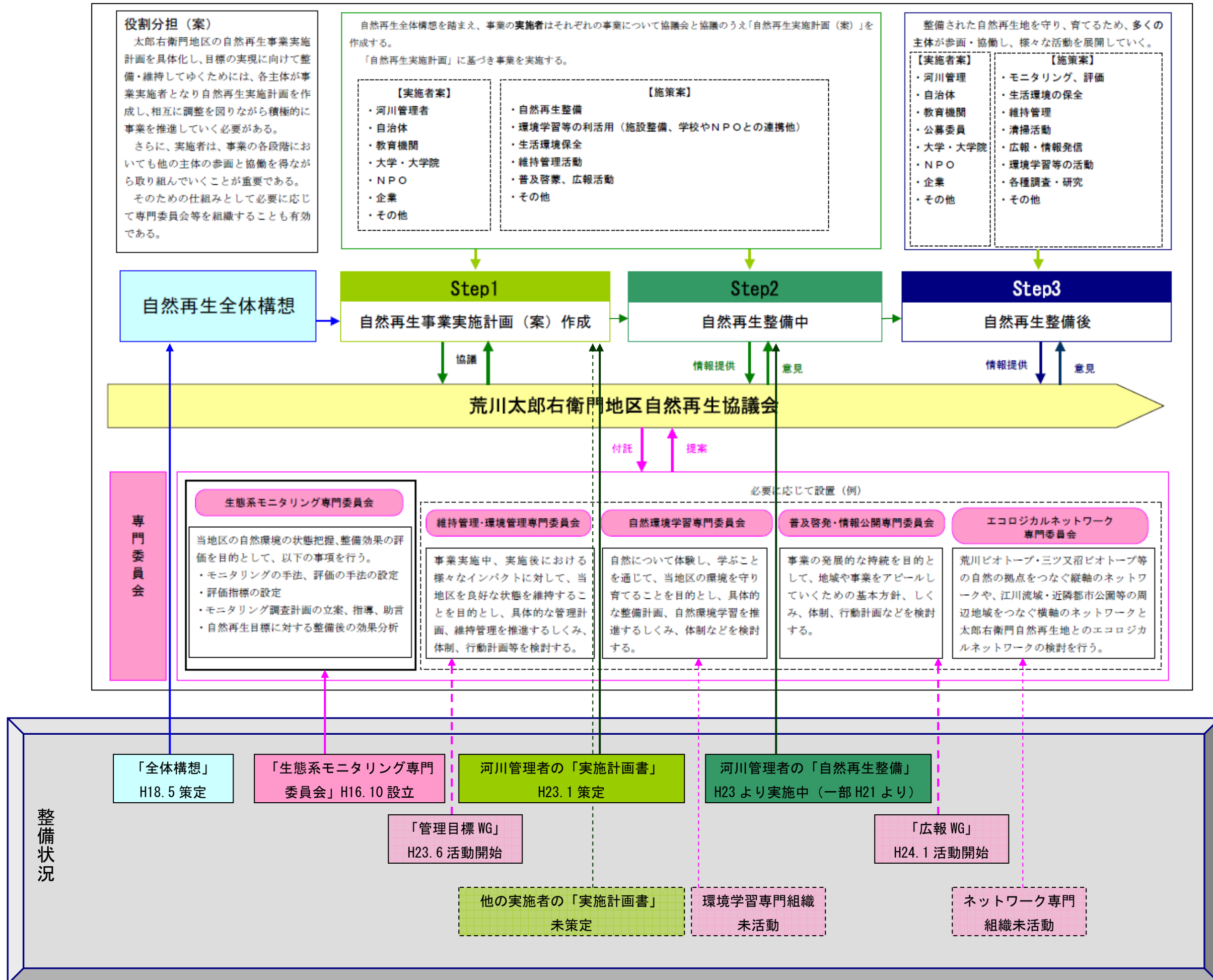
資料－3

第35回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
2013年12月3日

これまでの事業進捗について

全体構想(H16.3(H18.5改訂))(*文章は原文のまま)		実施計画書(H23.1)(荒川上流河川事務所)		試験施工(H21・H22)	整備(H23・H24)	整備(H25)	整備(H26以降)	
望ましい姿	自然再生の目標	施策		内容と結果	内容と経過	実施中の内容	予定	
			内容(*文章は原文のまま)	(検討事項)	検討無し	検討無し	(検討事項)	
70年前の荒川旧流路において太郎右衛門自然再生地固有の豊かな生態系を育む湿地環境	【湿地環境の保全・再生】 I. 太郎右衛門自然再生地固有の多様な生き物とそれらが生育・生息できる自然環境を保全・再生する。特に、多様性、自然性が高い湿地環境については全体のバランスを考慮し拡大を図る。 【過去に確認された生物が住める環境の再生】 II. 過去に確認された当該区域の固有かつ多様な生き物が住めるような環境の再生を目指すものとする。	【多様な水域・水際環境創出の施策】	1.旧流路の流水路としての整備	(検討事項)	(検討事項)	検討無し	検討無し	(検討事項)
			2.旧流路の保全(詳細はP5)	①旧流路の保全・再生 旧流路(上池・中池・下池)の保全・再生を目的に、開放水面の創出を図る。 中池・下池については既に開放水面があることから、環境の改変は行わないこととし、モニタリングを行いながら保全を行っていく。 上池の開放水面の創出においては、呑み口の切り下げ及び上流側で、地下水の湧水を期待し、河床堆積物の掘削を行う。なお、下流側では希少種(エキサイゼリ、オナモミ)が確認されていることから、これらの希少種を保全する観点から環境の改変は行わないように現状の保全を図る。 上池呑み口部は、現況の呑み口よりも敷高を切下げ、増水時における本川からの流入頻度の向上を図る。 なお、上池下流で希少種(エキサイゼリ、オナモミ)については減水時の流出防止対策も併せて実施する。	●上池:旧流路の掘削+呑み口の切り下げと流出抑制整備を実施 試験掘削により、掘削の効果を確認した。 →ときどき干上がる開放水面が形成された。 →水面形成時は沈水植物・浮葉植物が出現した。 →湿地を利用する動植物の目標種・希少種が出現した。	●上池の旧流路の保全・再生:旧流路の掘削を実施 ・湿地を利用する動植物の目標種・希少種が出現した。 ・下流側のエキサイゼリ・オナモミは株数の年変動が大きいものの(*気象条件によると推測)、生育範囲は保全されている。 ●中池・下池の保全:整備無し ◆進捗:旧流路Aの掘削完了	●上池:旧流路B掘削の検討	
			3.湿地及び止水環境の拡大(詳細はP6)	②湿地及び止水環境の拡大 上池周辺の河川敷では、地盤の切下げ等により、湿地及び止水環境の拡大を実施していく。また、上池周辺の試験施工地で地中に廃棄物の混入が確認されたことから、施策の実施においては事前に調査を行い、地盤の切下げ等について検討した上で実施する。	●上池:河川敷(モトクロス場跡地)の掘削掘削による効果はなかったが、撒きだし効果があった。 →湿地化せず、オギ等の乾性草本の群落になった。 →旧流路掘削土を撒き出した範囲では、目標種・希少種が出現した。	●上池:モトクロス場跡地A,Dの掘削と旧流路掘削土の撒き出し ・湿地を利用する植物の目標種・希少種が出現した。 ・撒き出し効果は確認中。 ◆進捗:モトAの半分、モトDの一部完了	●上池: ・モトDの半分を掘削 ・モトAの残りのエリアを掘削	●上池: モトDの残りのエリアを掘削 →整備完了予定
	【蛇行河川の復元】 III.荒川本川と連続させた流水路として蛇行河川を復元することにより、多様な水域・水際環境を形成する。 【荒川エコロジカル・ネットワークの形成】 IV.周辺地域とのエコロジカル・ネットワークの核となるよう、自然環境の質的向上を目指す。 【治水面からもプラス】 V.将来にわたり治水の面からもプラスとなるような自然再生事業とする。	【その他の施策】	4.河畔林の保全(詳細はP7)	③河畔林の保全・再生等 中池の河畔林周辺部における外来植物の繁茂している箇所では、在来植物が生育可能な環境を整え、本来の在来植物の繁茂する環境を拡大・維持する。	無し	無し	●中池:維持管理用の散策路、啓発用の看板設置等の検討	
			5.ハンノキ林の保全・再生(詳細はP8)	③河畔林の保全・再生等 高木・壮齢樹化しているハンノキ等の河畔林においては、間伐、下刈り、盤下げ、移植等を行うことにより、ハンノキ等の河畔林の萌芽、生育適地についての知見を得るとともに、多様な樹齢の樹木が生育する河畔林を保全・再生する。	●下池:掘削とハンノキ移植 周囲にハンノキがある場所・無い場所ともに移植したハンノキの成長が確認できた。 →成長したハンノキに目標種のミドリシジミが飛来した。 →移植無しの試験地にハンノキは出現しなかった。	●下池:シンジュ侵入域の掘削とハンノキ33本移植 ・ハンノキは概ね良好な状態である。 ・移植したハンノキに目標種のミドリシジミが飛来した。 ・掘削地に外来種が繁茂した。(初年度オオブタクサ、2年目ナヨクサフジ) ・今後の掘削・移植を検討中。 ◆進捗:下池の一部のみ掘削	●下池: ・ハンノキ126本の移植 ・掘削・移植について検討	
			6.河川縦断方向の連続性の確保	(検討事項)	(検討事項)	検討無し	検討無し	(検討事項)
	7.治水面での施策	(検討事項)	(検討事項)	検討無し	検討無し	検討無し	(検討事項)	
	8.維持管理(詳細はP9)	④維持管理 荒川太郎右衛門自然再生地の維持管理、モニタリング、環境学習及び安全な利用は、以下の方針に基づき実施していく。 (1)都心から40km圏内に位置するまとまった自然地であることを踏まえ、人と自然のふれあいに配慮した良好な自然地を形成していくように管理する。 (2)希少種や事業実施箇所等を保全するために必要となる外来植物の刈り払いやゴミ拾い等の活動を実施していく。実施する活動は、環境モニタリングの結果に応じて順応的に設定することとし、自然再生事業の取組みに参加される方々の協力を得て実施する。 (3)良好な自然地を形成していくため、環境学習や自然体験プログラムを通して、上記のような活動を呼びかけ、参加者の意識を高める。 (4)管理作業の実施にあたっては保全調整会議(仮称)等を随時開催し、目的や手法等の認識を共有する。また、必要に応じて管理等における専門委員会を設置する。 (5)事業目標の達成状況はモニタリング調査結果を基に評価し、施策にフィードバックしていくものとする。	●維持管理 下池ハンノキ育成試験箇所②でつる性草本の除去を実施。 ●モニタリング ・試験の効果検証調査を実施。 ・効果検証調査の一部として委員によるハンノキ生育状況とミドリシジミ飛来状況調査を実施	●維持管理 ・下池ハンノキ移植地で外来種、つる性草本の除去を実施。 ・今後の管理内容・体制を検討中。 ●モニタリング ・整備の効果検証調査を実施。 ・効果検証調査の一部として委員によるハンノキ生育状況とミドリシジミ飛来状況を調査。 ●環境学習と安全な利用 ・下池ハンノキ移植地で外来種管理と自然観察会を実施。	●維持管理 今後の管理の内容・体制を検討 ●モニタリング ・整備の効果検証調査を実施中 ・今後のモニタリング調査の内容と体制について検討 ●環境学習と安全な利用 ・上池の自然再生地の視察を実施 ・下池ハンノキ移植地でハンノキ移植と自然観察会を実施予定。 ・公式ウェブサイト開設。	●維持管理 今後の管理の内容・体制を検討 ●モニタリング 今後のモニタリング調査の内容と体制について検討 ●環境学習と安全な利用 イベント等の活動の内容を毎年検討予定		





2. 旧流路の保全

実施計画

- ・旧流路（上池・中池・下池）の保全・再生を目的に、開放水面の創出を図る。
- ・中池・下池は、開放水面があるためモニタリングを行いながら保全を行っていく。
- ・上池の開放水面の創出は、呑み口の切り下げ、上流側の地下水の湧水を期待した河床堆積物の掘削による行う。
- ・下流側は希少種（エキサイゼリ、オナモミ）が確認されており、現状の保全を図る。
- ・上池下流で希少種（エキサイゼリ、オナモミ）については減水時の流出防止対策も併せて実施する。

これまでに実施したこと

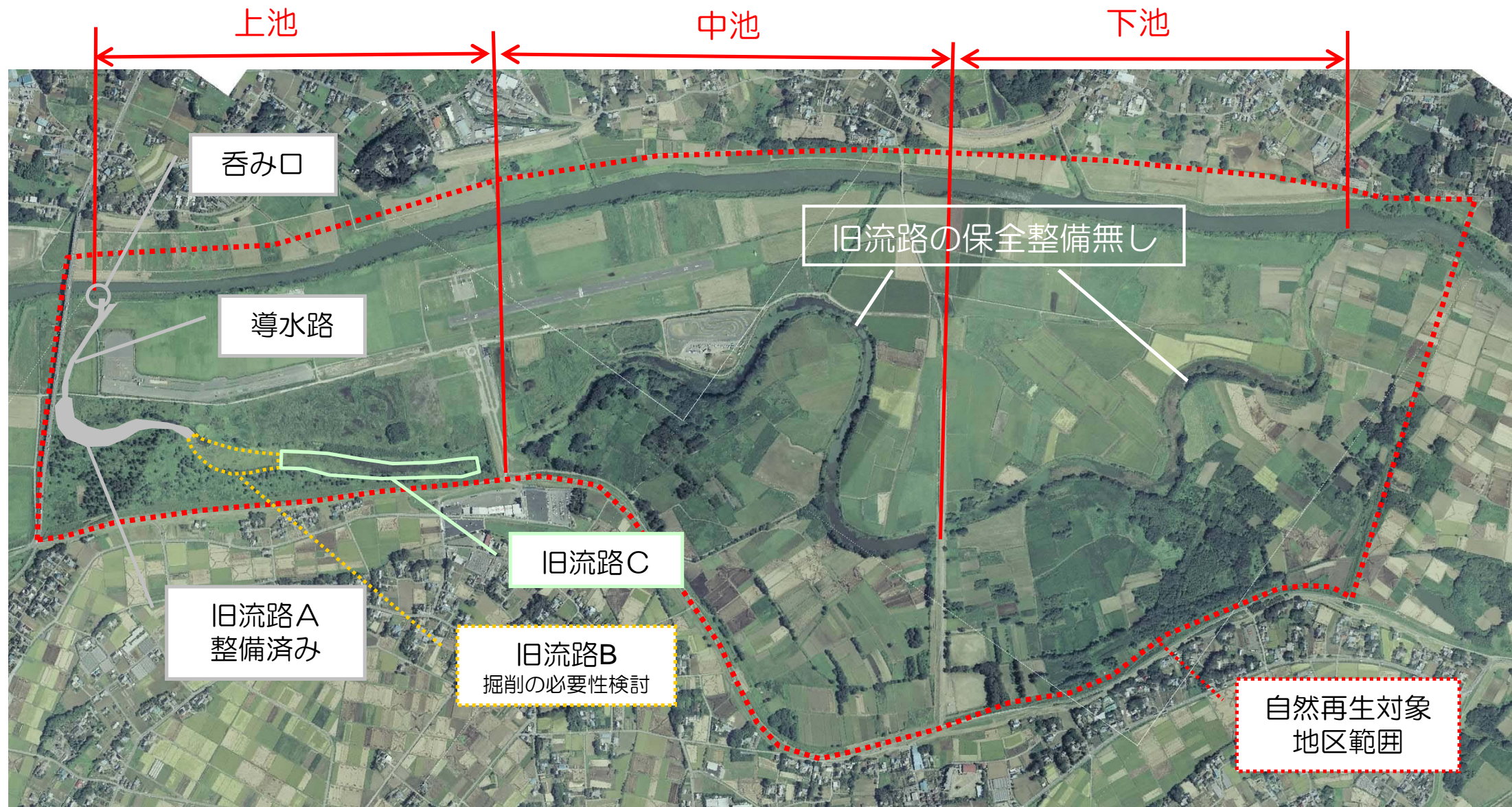
- ・旧流路の掘削、呑み口の切り下げと流出抑制整備、導水路の整備

今年度実施すること

- 【整備(H25)】
- ・平成25年度の掘削は無し（緩和区間の旧流路B整備の必要性検討）

今後実施すること

- 【整備（H26以降）】
- ・旧流路Bの掘削（ただし、整備の必要があるとされた場合）



旧流路の保全 位置図

3. 湿地及び止水環境の拡大

実施計画

- ・上池周辺の河川敷では、地盤の切下げ等により、湿地及び止水環境の拡大を実施
- ・上池周辺の試験施工地で地中に廃棄物の混入が確認されたことから、施策の実施においては事前に調査を行い、地盤の切下げ等について検討した上で実施する。

これまでに実施したこと

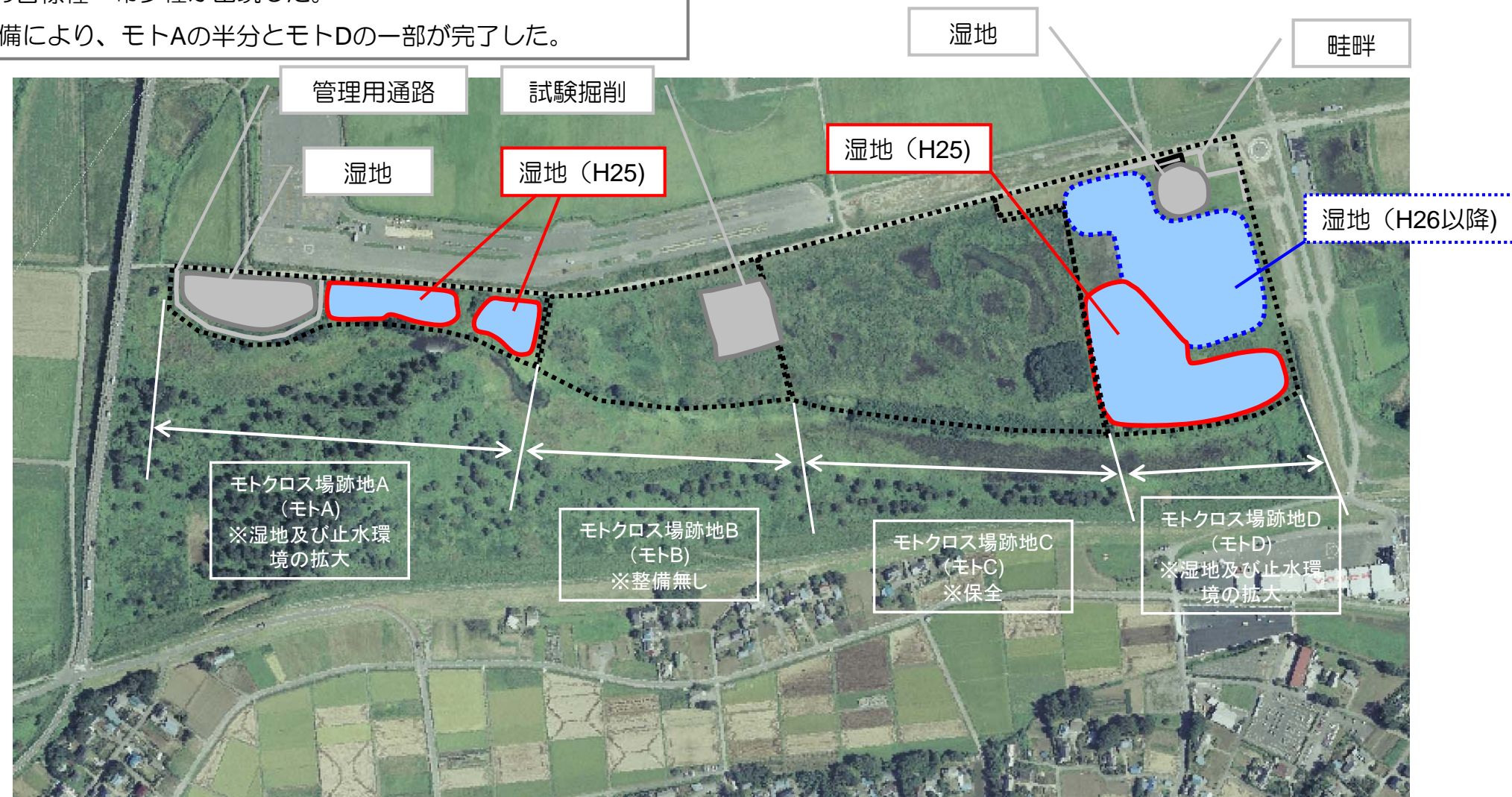
- ・廃棄物の調査を行い、堆積している場所を確認した。
- ・掘削によって取り出した廃棄物は産廃処理を行うこととした。
- ・河川敷（モトクロス場跡地）の試験掘削を行った。結果、掘削による効果はなかったが、撒きだし効果があった。
- ・モトクロス場跡地A,Dの掘削と旧流路掘削土の撒き出しを行った。この整備により、湿地を利用する植物の目標種・希少種が出現した。
- ・平成24年度までの整備により、モトAの半分とモトDの一部が完了した。

今年度実施すること

- 【整備(H25)】
- ・モトDの半分を掘削
- ・モトAの残りのエリアを掘削（モトA完成）

今後実施すること

- 【整備(H26以降)】
- ・モトDの残りのエリアを掘削



湿地および止水環境の拡大 位置図

4.河畔林の保全

実施計画

中池の河畔林周辺部の外来植物繁茂箇所、在来植物が生育可能な環境を整え、在来植物の繁茂する環境を拡大・維持する。

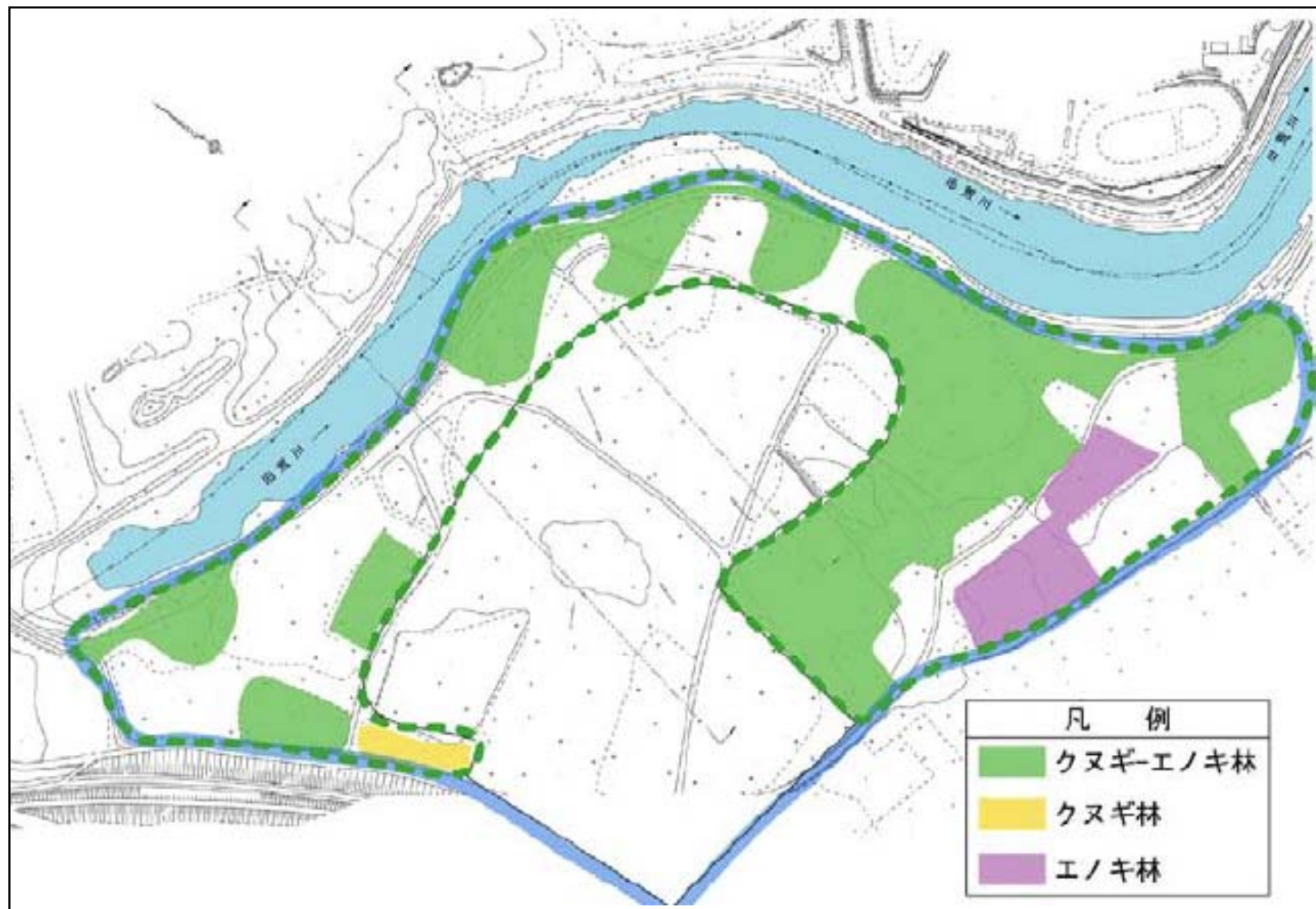
これまでに実施したこと

・無し（河畔林および周辺植生は現状維持とする方針になった）

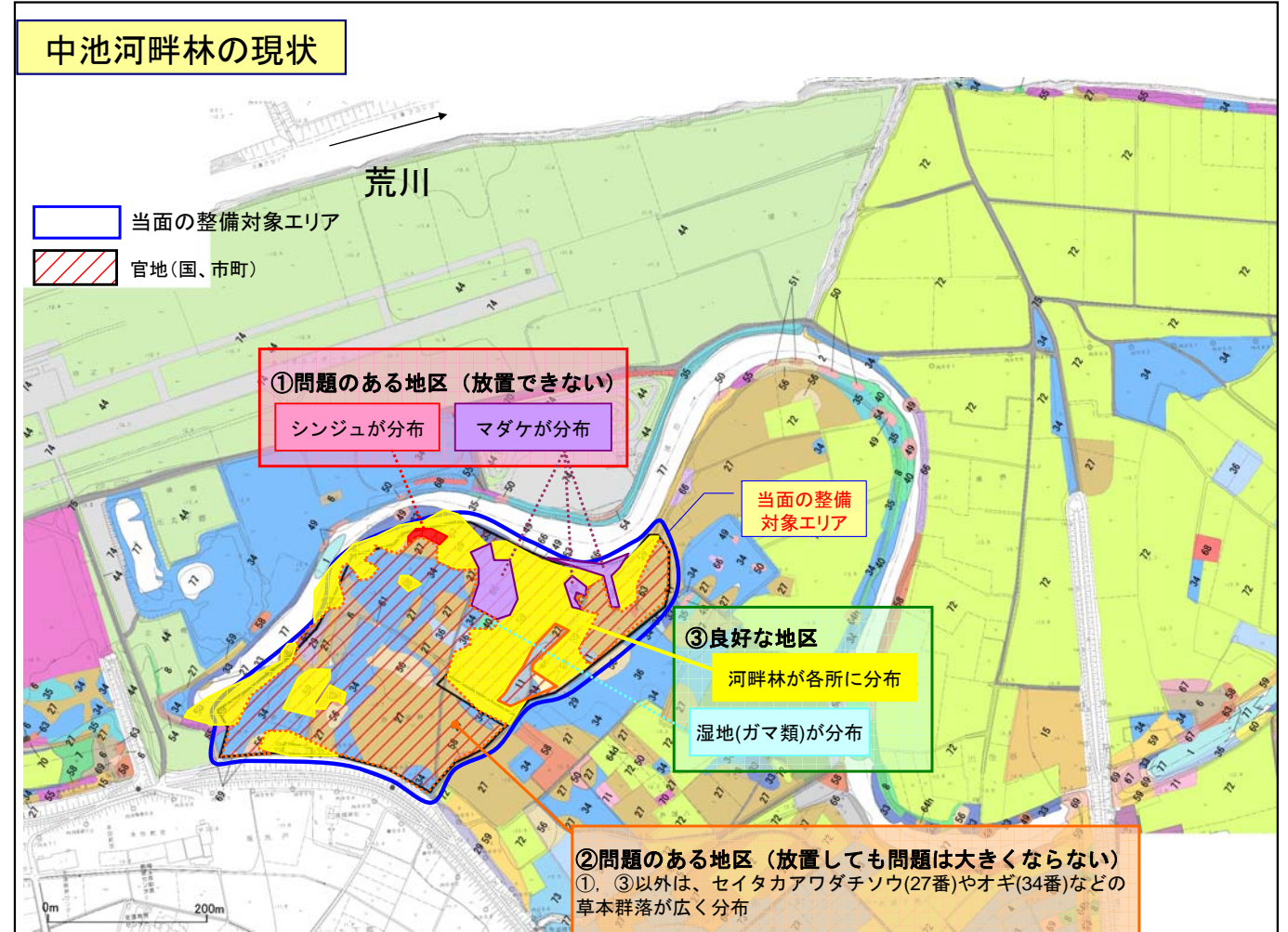
今年度実施すること

今後実施すること

図：実施計画書P17



図：第29回協議会資料



5. ハンノキ林の保全・再生

実施計画

- ・間伐、下刈り、盤下げ、移植等を行う。
- ・ハンノキ等の河畔林の萌芽、生育適地についての知見を得る。
- ・多様な樹齢の樹木が生育する河畔林を保全・再生する。

これまでに実施したこと

- ・2箇所の試験移植と1箇所の基盤整備（基盤整備のみの場所ではハンノキ生育無し）
- ・整備地で33本の移植

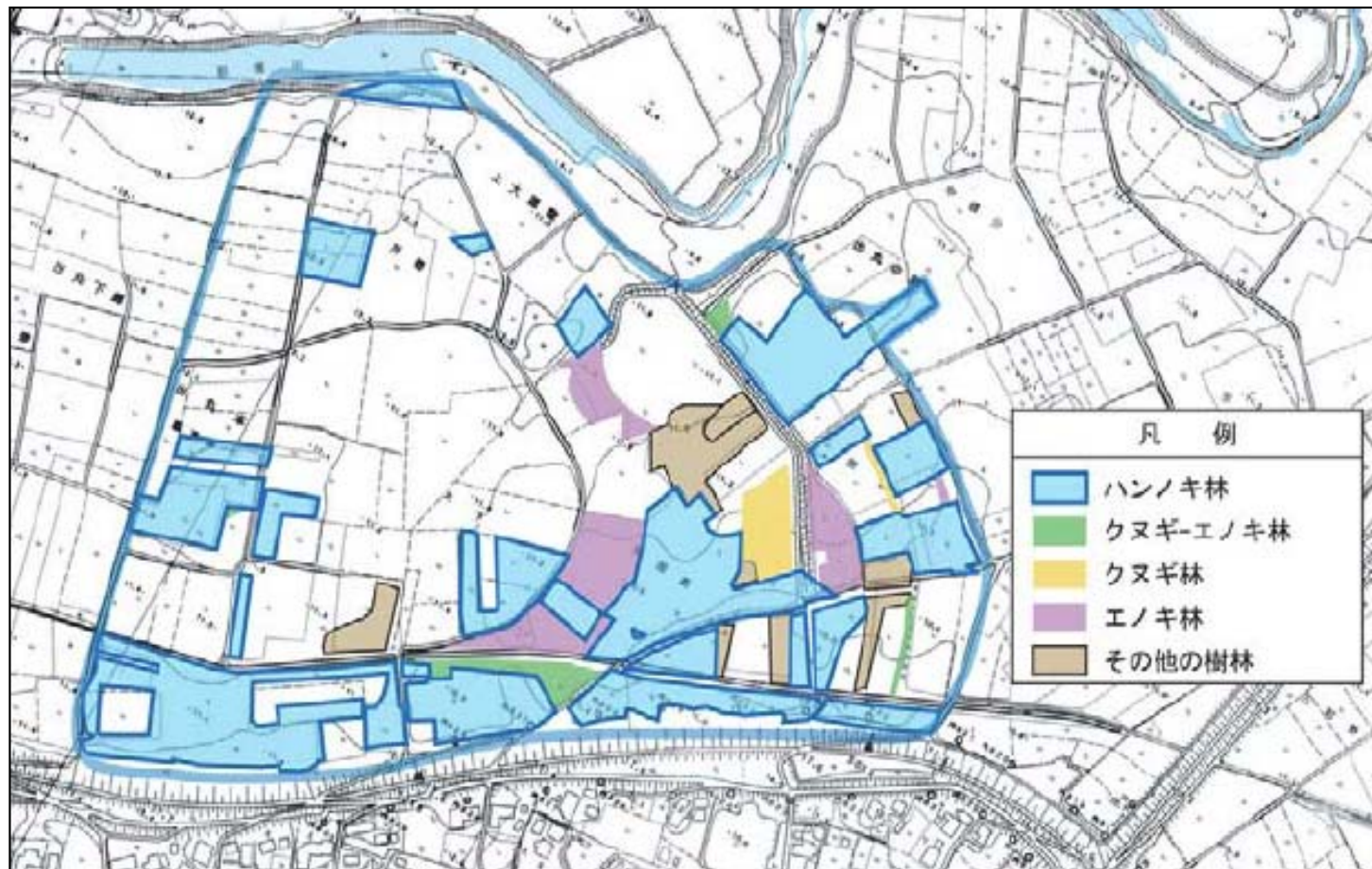
今年度実施すること

- 【 保全・再生(H25) 】
- ・整備地でイベントにより126本移植（計159本移植）

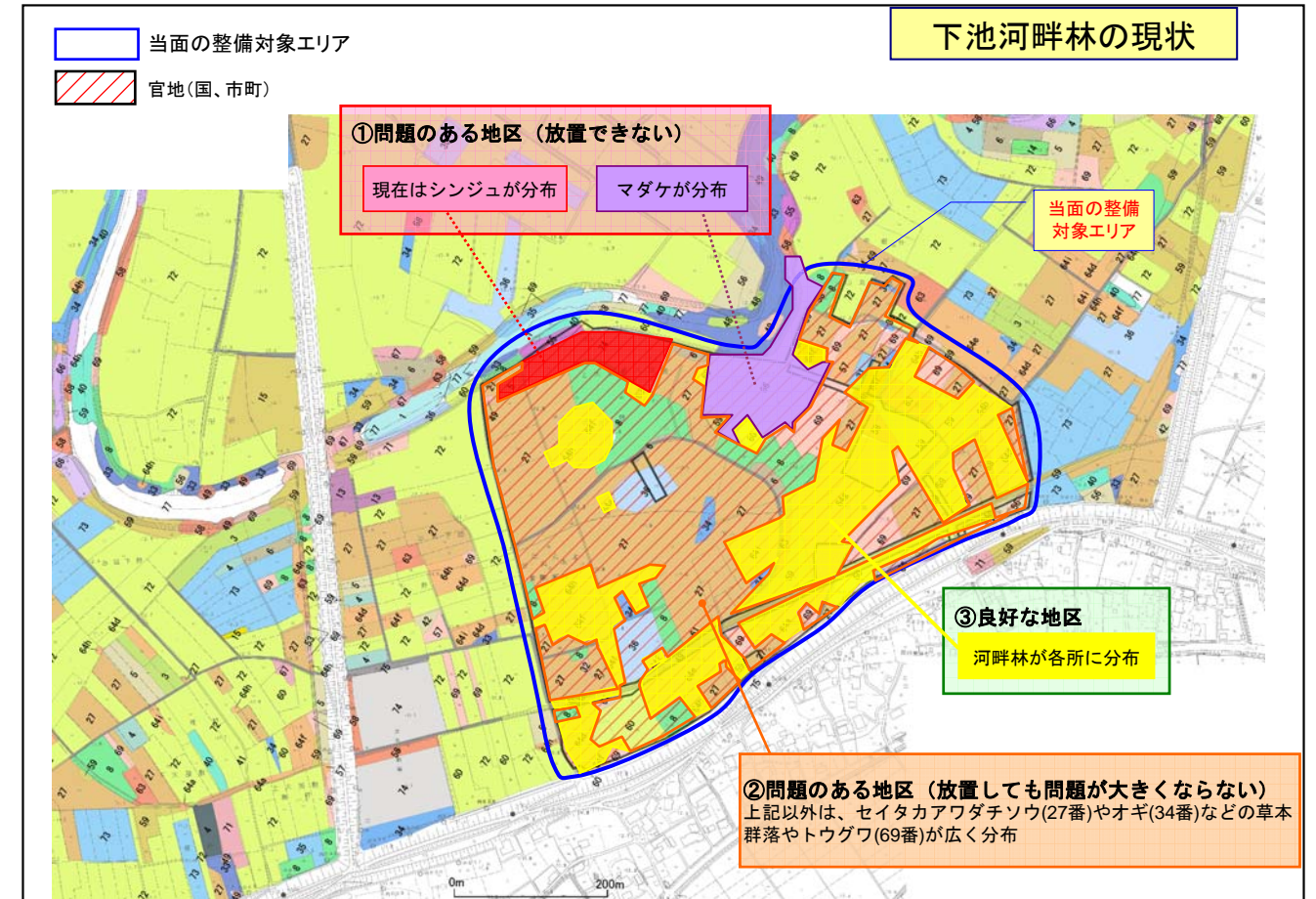
今後実施すること

- 【 保全・再生（H26以降） 】
- ・現整備地での追加移植
 - ・整備地の拡大

図：実施計画書P17



図：第29回協議会資料



ハンノキの保全再生 位置図

8. 維持管理

実施計画

- ・ 都心から40km圏内に位置するまとまった自然地であることを踏まえ、人と自然のふれあいに配慮した良好な自然地を形成していくように管理する。
- ・ 希少種や事業実施箇所等を保全するために必要となる外来植物の刈り払いやゴミ拾い等の活動を実施していく。実施する活動は、環境モニタリングの結果に応じて順応的に設定することとし、自然再生事業の取組みに参加される方々の協力を得て実施する。
- ・ 管理作業の実施にあたっては保全調整会議(仮称)等を随時開催し、目的や手法等の認識を共有する。また、必要に応じて管理等における専門委員会を設置する。

これまでに実施したこと

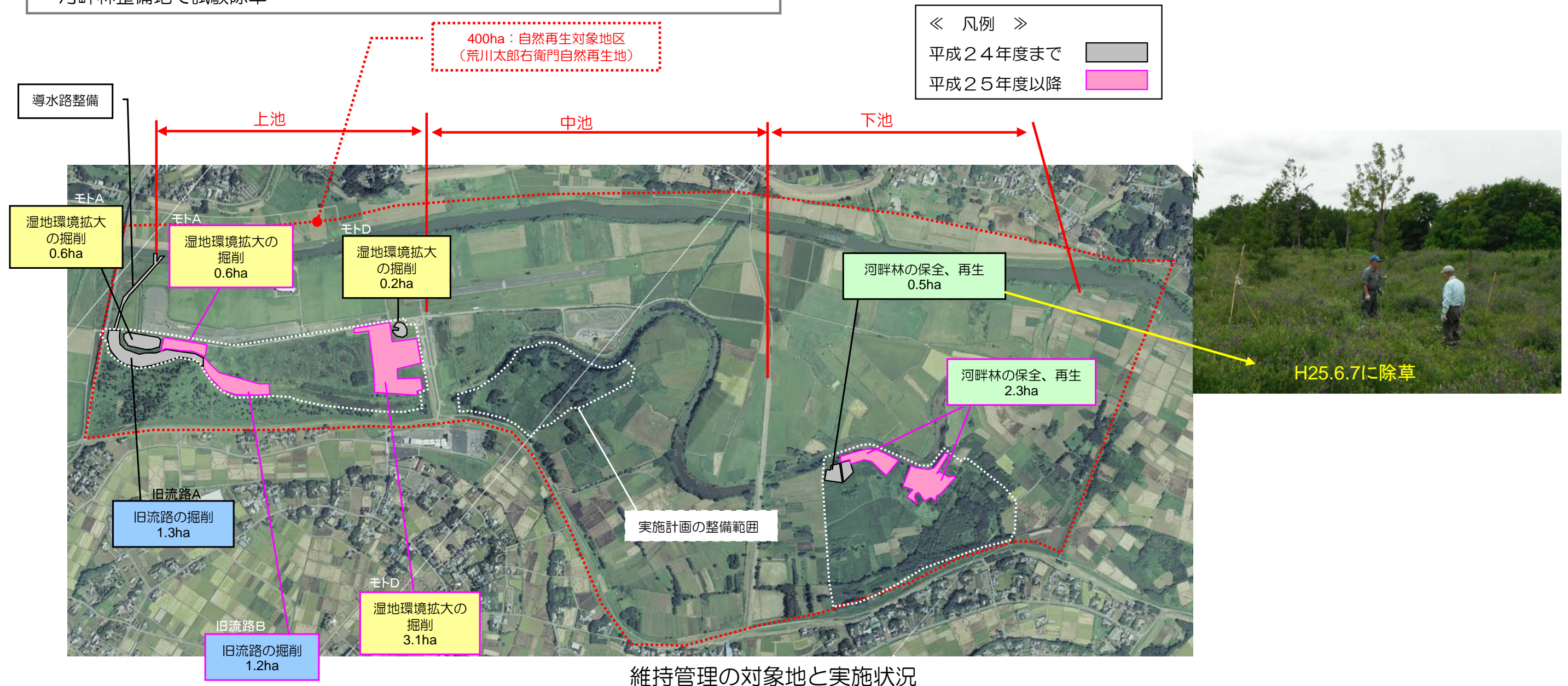
- ・ 河畔林整備地で試験除草

今年度実施すること

- 【検討 (H25)】
- ・ 管理用通路・散策路の検討

今後実施すること

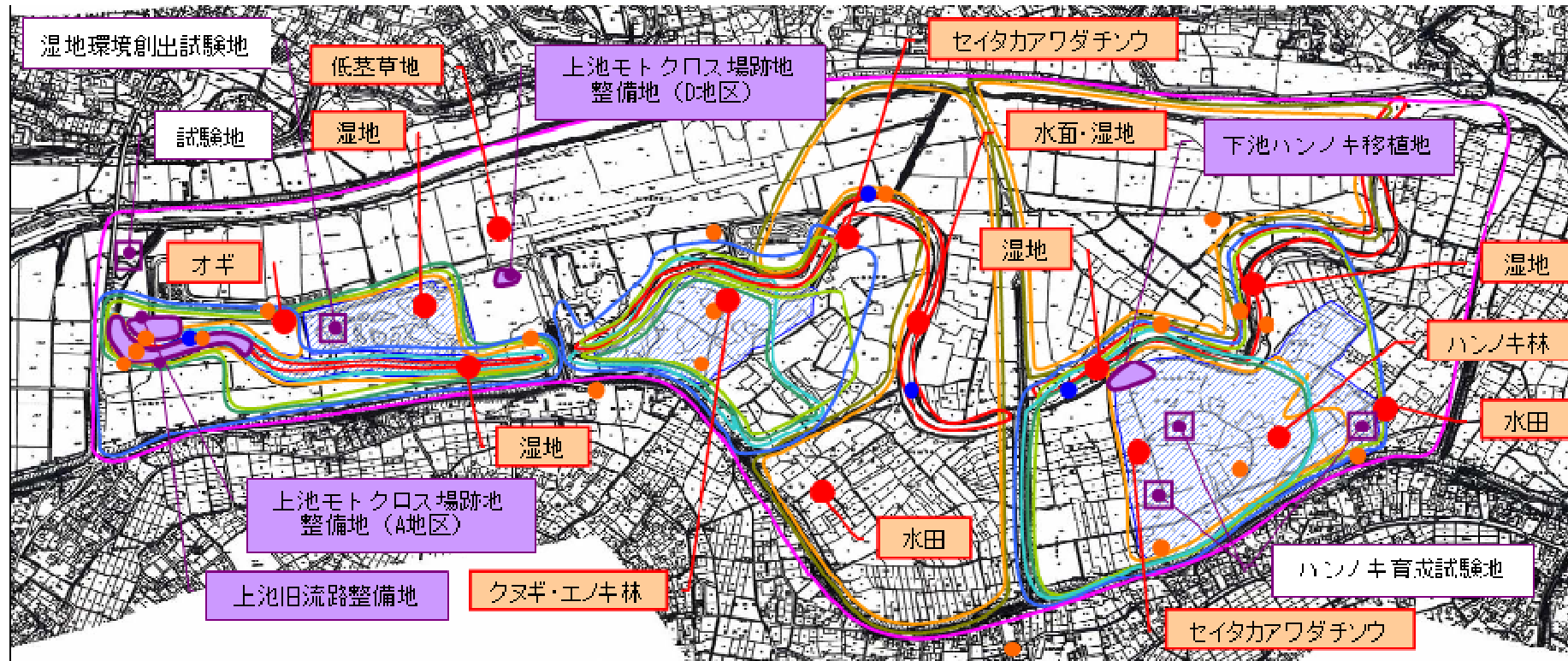
- 【検討・整備・管理 (H26以降)】
- ・ 管理用通路・散策路の検討と整備
 - ・ 維持管理



9. モニタリング

実施計画

- ・希少種や事業実施箇所等を保全するために必要となる外来植物の刈り払いやゴミ拾い等の活動は、環境モニタリングの結果に応じて順応的に設定する。
- ・管理作業の実施にあたっては保全調整会議(仮称)等を随時開催し、目的や手法等の認識を共有する。また、必要に応じて管理等における専門委員会を設置する。
- ・事業目標の達成状況はモニタリング調査結果を基に評価し、施策にフィードバックする。



太郎右衛門地区全体		H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
●	地下水位	-	-	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
●	水質	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
—	植生	●	-	-	●	-	-	●	-	(水国)	-	●	●
—	植物相	●	●	●	●	●	●	●	-	-	水国	-	-
—	鳥類	●	●	●	●	●	●	●	-	-	-	●	-
—	両生類・爬虫類・ほ乳類	●	●	●	●	●	●	●	-	-	-	(水国)	●
—	昆虫類	●	●	●	●	●	●	●	-	-	-	-	●
—	魚類	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	-
—	底生動物	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-

* 「水国」は河川水辺の国勢調査を実施

自然再生事業の実施計画に関する調査		H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
■	当国の整備対象範囲 (実施計画範囲)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
■	試験地 (橋下)	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	
■	上池試験掘削地	植生・群落組成・植物相	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●
		昆虫類	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●
		魚類	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●
		底生動物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●
□	湿地環境創出試験地	植生・群落・植物相	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-
		昆虫類	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-
□	ハンノキ育成試験地	植生・群落・植物相	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-
		ハンノキ	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●
		昆虫類	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-
○	上池旧流路整備地	植物相	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
		鳥類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
		魚類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
○	上池モトクロス場跡地整備地	植物相	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
		鳥類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
		魚類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
○	下池ハンノキ移植地	ハンノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
		ミドリシジミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●

モニタリング 実施状況 (位置と項目)

10. 環境学習と安全な利用

実施計画

- ・都心から40km圏内に位置するまとまった自然地であることを踏まえ、人と自然のふれあいに配慮した良好な自然地を形成していくように管理する。
- ・良好な自然地を形成していくため、環境学習や自然体験プログラムを通して、上記のような活動呼びかけ、参加者の意識を高める。

実施日	概要	状況
H24.10.14	<ul style="list-style-type: none"> ●外来種退治！～田園戦士かわじマンも来るよ ●植物の外来種除去と昆虫観察のイベントを開催 ●一般76人、埼玉大学学生75人、計151人参加 	
H25.5.11	<ul style="list-style-type: none"> ●遊ぼう！学ぼう！たろうえもん！！ ●鳥や植物、整備地を観察するイベントを開催 ●一般7人、埼玉大学学生26人、計33人参加 (事前申込み制ではなく、雨天であったため参加者は少なかった) 	
H25.11.9	<ul style="list-style-type: none"> ●遊ぼう！学ぼう！たろうえもん(秋) ●ハンノキの移植と「しのてっぼう」作りのイベントを開催 ●一般26人、埼玉大学学生40人、計66人参加 	